

第3回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 委員発言要旨

【WG 活動について提案】

◆ 大宮委員

- ・委員の中で、宿泊、体験、ブランド化など各セクション毎にワーキンググループを作って、グループ毎に地域に持ち帰っていただいて、地域の方々の意見も聞きながら、WGの中で検討し、最終的にこの会議に報告する。
- ・まず第一歩として、このような形で、交通を絡めて、各旅館含め、コンテンツを繋いでいくべきではないかという考えで提案させていただいた。
- ・詳細については、これまで他地域などでも実際に取り組んできた鈴木から説明させていただく。

◆ タケヤ交通 鈴木顧問

- ・具体的な目標に向かって、県の方針に沿って推進していくために、みなさんの持っている経験やアイデアなどを一緒にしたものを大手旅行会社に提案してみてもどうかと考えている。
- ・今現在、観光需要は回復傾向を示しており、全く悲観する状況ではない。
- ・仙南地域は、食、買物、体験、温泉など非常に贅沢なコンテンツがそろっている地域。各季節においてしっかりした日帰りプランを考えることが可能。温泉を含めると1泊・連泊プランも可能。
- ・ワーケーションについても、ネット環境がまったくだめな地域はない。多くの自然のなかで、お子様連れでのワーケーションが可能。
- ・現代の湯治という形でワーケーションを売り込み。果樹園をメインとした日帰り・宿泊プランを検討。
- ・GoTo トラベルキャンペーンを活かした旅行プランを作りながら、仙南地域の良さを徹底的に売り込むことができればよいのではないかと。
- ・このアイデアを皆さん一緒になって考えながら、きちんとした一つの商品を大手旅行会社に提案してみたい。
- ・是非皆様と一緒に、この仙南地域をアクセスのよい地域ということを掲げながら、進めていきたい。

【委員御意見】

◆ 村上委員

- ・2019年は最高の観光入込数だったが、コロナの問題で一気に下がってしまった。収束というのが見込めない状況。
- ・感染症防止というブレーキをある程度踏みながら、観光振興というアクセルを踏んでいかななくてはならない状況。
- ・WGについては、大宮委員がいったように果樹など特産品の買い物なども含め、観光全体の振興を図っていくのはとても良い考え。うちではそらまめやとうもろこしなど、各地域でもそれぞれ特産品があ

るので、盛り上げていけたらと思う。

◆ 嶋崎委員

- ・計画は計画で良しというか、これを具体的なアクションとしてどう落とし込んでいくかの方が大事。
- ・回復戦略について、資料2-1の②、視点2(3)、視点3(1)このあたりが非常に大事。今までの観光戦略は来てもらって終わりということが多かったが、これからのマーケット、仙台、宮城県内から呼び込むということであれば、よりリピーターになっていただく可能性が高いということを考えると、単なる観光だけではなく、より地域を知っていただくとか、地域の方々との交流を図りながら、地域のファンになってもらうことでもかたにリピーターになってもらうかという考え方が大事。
- ・前回、前々回もお話したように経営維持できるようなビジネスモデルを作ることも取組として大事。
- ・前回も話したが、視点3(2)はどうにも寂しい感じがする。ここに記載されていることは本当にアドバンテージなのか。オリンピック・パラリンピックも宮城にどれだけ効果があるのか。それよりも全国的に知名度がある松島や蔵王や、温泉地に人を呼び込みますと言ってもらった方がしっくりくる気がする。
- ・いろいろなところにワーケーションという言葉が出てくる。これはこれでマーケットとしてあるのかとは思いますが、個人的には若干ワーケーションには懐疑的。家族で旅行に行って、旅先で自分だけ仕事をしているという状況になったとき、家族から理解を得られるのか。ワーケーションができる環境をどれだけ家庭内で整えられるのか。子連れでワーケーションは難しいのではないかと思う。子供を預かるサービスがあれば違うかもしれないが、例えばWifiを整備すればよいというものではないと思う。
- ・それよりも仙台に出張に来る人が、仙台市内のビジネスホテルに泊まるのではなく、ちょっと足を伸ばして温泉街に来てもらった方が効果があるのではないか。
- ・WGについては賛成。

◆ 佐藤委員

- ・いろいろ提案されている計画等があるが、なんで今さら、コロナになってこんな計画をしなくてはならないのか。自分達の町の特性とかをもっと伸ばそうと努力をしなくてはならないのに、今さらになって集まってこのエリアがまとまるということは非常に時間がかかることであり難しい。
- ・蔵王から亘理丸森までのエリアを繋ぐのはかなり難しい。
- ・それぞれの地域がそれぞれ取り組んできて、いまさらになって各地域を繋ぐということは非常に難しい。
- ・今までの実績をもって観光客を呼び込んでいきたいという自負もある。
- ・WGに関しても、努力をしていないエリアというのはそれなりに問題点があったということ。我々は今こうしたコロナの中でも、昨日からタクシー会社の協力の元、2名からでも2時間くらいの周遊観光(1人2200円)ができる、GoToに向けた割引ツアーを実施している。なんらかの発信をしていかなければならない。
- ・今さらここでWGを作ってやろうというのは、時間がかかりすぎることだと思っている。
- ・回復戦略等については特に意見はない。

◆ 笠原委員

- ・プランに関しては、特に異論なし。これがきちんと実現できればいいことだと思う。
- ・資料2-1②の視点2は、回復戦略のその後のことを考えると特に(2)(3)が長期的な視点で見ると非常に大事なのではないかと思う。
- ・小さな地域からはじめて、それを仙南、県内、東北と進めていくのは良いことだと思う。マイクロリズムなら、もっとマイクロな部分にこだわって、地域の特殊性などを掘り起こすといったことが大事なのではと思う。
- ・同じ地域、近い地域の人があると、より深いディープなコンテンツが求められるので、既存のものも新しい視点で見直して、地元の人でも一部の人しか知らないようなものなど、もうちょっととがらせて発信していくことが必要になってくる。こういったことを充実させるためには、コンテンツの充実が重要になってくると思うので、各地域の今ある資源をまた新しい視点、切り口で洗い出し、発信していくことがベースとなる。
- ・行政はそれらコンテンツをまとめて、情報発信していただき、各コンテンツ・事業者を繋いでいただきたい。
- ・前回の宮原先生のお話にもあったJRの小さな旅やオルレ、街歩きなど絞り込んだ形のコース・方法が必要。
- ・安全安心の発信も大事だが、いずれそれがスタンダードになってくるとそれで差別化はできないので、短期的にのみ有効。
- ・WGについては、大人数では深い議論ができないので、WGを作ってやるのは賛成だが、特定の人作業量が増えてしまう懸念があるので、その点配慮しながら進めることは賛成。

◆ 小野寺委員

- ・観光戦略については、このような形で良いのだろうと思うが、実際にどういったことをやっていくのが非常に重要なので、それをどう組み上げていくのが注意すべきところ。
- ・大宮委員の提案については同じ考え。キーワードは“外”。中で過ごすより、外で過ごすことに安心感・開放感を感じる。体験型なども組み合わせながら、具体的にプランを考えていったほうが良い。
- ・ただし、長期滞在はなかなか一カ所できにくい情勢が見て取れる。観光を考えたとき、ある程度短時間で複数回を回る傾向を感じるので、地域のコンテンツをうまく組み合わせ回っていただくプランがよいのではと感じている。
- ・うちに観光として来ていただいているのは比較的若い層。観光に動いているのが若い方といった方がいいのか、年配の方は買い物には来るが、観光には二の足踏んでいるような傾向を感じている。県でGoToとからめた施策をするのであれば、若年層や子供連れプランを考えてほしい。
- ・子供達がなかなか外に出られず、メンタルも気になる。外に出たときに何か言われるんじゃないかという考えもある。観光にもっと出て行って、いろいろなところを知ってもらって、子供の教育にもよいという機運を醸成してほしい。地域の人ももっと動きやすくなる。
- ・子ども連れとなると、交通手段はやはり車になってしまうので、WG活動のプランからは外れてしまうかもしれない。
- ・しかし、子供は将来の購買者になる存在であり、そんな人たちの成長に向けてもいいのかなと思う。

いずれ具体的な計画を立てるときにはそういったことも考慮してもらいたい。

◆ 小野委員

- ・回復戦略は基本的に賛成。
- ・7月の連休、お盆について、駅はがらがらで密になる状況にはならなかったが、皆さんのところを見回ったら、車でいっぱいだった。多くの方が外に出たいという気持ちを持っているのは実際に見て取れ、今後、間違いなく外に出たい人はいるだろうなと実感した。
- ・コロナは毒性が高くないというのは証明されているのではないかと思うが、基礎疾患のある方や高齢の方が罹ると重症化するというところに注意しなくてはならない。
- ・来年の東北DCはやる方向で動いており、今日からエクスカージョンがはじまった。明日から金曜日にかけて仙南地域を周遊する。最終的に、白石蔵王駅で解散。20人弱の方がいらっしゃるの、白石市と観光協会と合同で最後のお見送りを実施。金曜日16時台の電車で帰るとのことなので、もしお時間がある自治体の皆さんがいれば、ぜひ一緒に。仙南が温かい地域だと感じてもらえたら、多くの観光客を誘客してもらえと思う。
- ・WGは個人的な意見をいうと、仙南はいいところたくさんあって、ここにしかないものがあるが、新幹線の駅から考えるとなかなか周遊しにくいところがある。JRバスや宮城交通バスもたくさん走っていたが、今はもうなくなり、タクシーに頼る状況。大宮委員の提案は渡りに船。こういう機会が無ければ、こうやってお話もできなかったと思うが、こうして橋を渡してくれたので、何かひとつでもいいので、今で言う蔵王の梨やリンゴなど、毎年地方発送すると大変喜ばれるものを地元で食べられたら、紅葉の中非常にいい光景が思い浮かぶので、ひとつでもプランを実現できればいいなと考えている。

◆ 大宮委員

- ・何かアクションが必要だろうということでワーキンググループ活動について提案させていただいた。
- ・回復戦略の視点1, 2, 3とあるが、これにもとづいて考えていくと、足並みをそろえて、1つでも地域を結ぶ形を作りながら、お客様に来ていただき、地域のいい物を知っていただく、食べていただく、泊まっていただくということが、絶対に必要。
- ・我々の地域としては、やはり蔵王を背にしている地域であり、皆さんがもっているよいものを結びつけて、やれることから、ひとつずつやっていけたらというのが、WGのはじまりとして、まとまりが1つでもできるのではないかと思って発案させていただいたので、その辺は誤解無いようお願いしたい。
- ・回復戦略をアクションにつなげるためのきっかけとしてWG活動をしていければ。
- ・WGで作ったモデルプラン数案から良いコースが作れたら、やはり旅行会社等と提携して商品化して売り込んでいく。少人数からでも徐々に口コミ等情報発信により、時間が経てば人の動きが変わってくる。やはり計画策定で終わるのではなく、しっかりとアクションに向けてやっていきたい。委員の皆さんからの意見も、できればよい方向に向いていくように願いたい。
- ・回復戦略については、良いことだと思うので、これに向かって我々もやっていきたい。
- ・時間はあまりないが、皆さんとお話する機会が少なく、コミュニケーションができないので、引き続き、こうした形で話していきたい。各行政の話も交えながら、各地域を結ぶということを考えていか

なくてはならないと思うので、ぜひ行政の方からの意見などもお願いしたい。

◆ 今井委員

- ・回復戦略については、特段意見なし。みなさん言われたように、コロナ時代なので難しいとは思う。
- ・佐藤委員から、うちはうちで努力しているんだから、みんなで手を繋いで取り組むのは難しいという話があったが、実際、対象を広くしていくと、距離と比例して圏域が広がってしまう。例えば、広島からみれば宮城県、海外から見るとさらに広くなり東北というエリア、あるいは日本全国となってしまう。そういう意味で、蔵王は蔵王でやるが、エリアの底上げという意味でそれぞれ頑張っていけたらいいのかなと思う。手を繋ぐというよりも、エリア全体の底上げというイメージで考えている。
- ・蔵王については、じゃらんの“世界の絶景とのコラボ”（日本の“まるで海外”絶景ランキング）でちょうど御釜が紹介されている。ニュージーランドのトンガリロ国立公園と御釜の見た目が同じということ。イメージ戦略として、せっかくじゃらんがこうしたネタをくれたので、これをうまく使って、日本全国、世界にもアピールできると思う。
- ・実際に人を動かすということだと、県内でもやはり南の人は北へ、北の人は南に行くほうにモチベーションが上がると思うので、こうした南北間の交流から広げていくのはありかなと思う。
- ・大きな観光業界の課題としては、ハイローシーズンの均一化だと思う。これはWGでもネックにしたいと思うテーマなので、全国に先駆けてハイローシーズンの均一化のモデルケースを作れたらいいのかなと思う。WGは賛成。ひとつでも答えを出せれば。
- ・道の駅かくだの現状。お盆自体は良かったが、長雨にたたられ苦戦。国道沿いではないと、そういうとき弱いので、周りの皆さんのところに来る人が角田に来てくれたら助かるという立場なので、圏域での動きというのありがたい。
- ・平日の雨のときはどう発信しても客を引っ張ってこれないし、イベントをして赤字を重ねるわけにもいけないので難しいところ。こういった現状があるので、こうした会議で、誘客に繋がるようなものが生み出せたらいいなと思っている。

◆ 伊藤委員

- ・個人的な思いとしては、計画書自体は概念的な部分だと理解している。実際にやる人が、自分に落とし込んで考えられないと全く意味がないものになってしまう。
- ・WGは、概念的な戦略ができ、実際にどうやっていこうかというときに、計画の中で、実施、検証してどう改善していくかというところまでは計画書には載らないことが多いので、これからどのように実施していくかの実行部隊というものは非常に大事だと思うので、WGが開催されるときは参加したいと思う。

◆ 一條委員

- ・温泉街の問題。日本全国どこでも温泉街にある商店街が寂れている。
- ・その原因のひとつが入湯税。入湯税は本来、温泉街に還元されるべきもの。それが一般財源に組み込まれてしまって、温泉街自体にまったくお金がない。整備されない。どんどん寂れていく。これが温泉街が寂れた原因の一つ。それを各自治体が、まずは入湯税は入湯税と、きっちり分けてやるのが

まず温泉街活性化の大事なことなのかと思っている。客は温泉街を通ってくるので、温泉街の印象は非常に大事。

- ・今はGoToトラベルで集客しているが、これが終わったらどうなるのかものすごい危機感を感じている。来年2月以降どうなるか。
- ・DCがあるということだが、2021年は東京からの集客を目指すべき。今は県内や東北域内から来てもらっているが、コロナが落ち着いて、GoToが終わったら、海外から来るのはまだ先になると思うので、まずは首都圏。東北DCをやっていただくのはありがたい。
- ・ただ、これまで宮城DCを何度もやっていただいたが、成功かというところと全く変わっていない。大して影響はないというのが現状。そのDCを成功させるためにどうしたらいいのか考えたほうがいいと思う。今、新幹線ががらがらの状態ということなので、せっかく白石蔵王駅があるので、ぜひ白石蔵王駅の集客を増やしたい。新幹線に乗って仙南地域に来て、周遊してもらおうように来年は東京の集客を目指すべきだと考えている。
- ・2022年位になったら海外も動き出すのではないと思う。そうしたらインバウンドも考える。それから、2025年の大阪万博をめぐって、日本に来る外国人を東北に持ってくるという計画がいいのではと考えていた。
- ・今はコロナの状況で、収入減になっているところで観光に向けさせるというのはなかなか厳しいことだと思っている。
- ・仙南地域は広いので、周遊するには客にとっては分かりづらい。写真になっていると見やすい。三十六景のマップとかあるが、それを見ても正直分からない。それよりも、仙南の地図に写真があるというだけで分かる。文章は知らない。仙南地域にはこういうのがあるんだと分かる。
- ・グアムやポートランドでは、無料バスが走っている。交通渋滞がない。自転車も積めるし、乗り放題。それで周遊している。グアムが一番分かりやすく、バスに乗って行ってみようという分かりやすく乗れるものがある。そういうものがあれば、分かりやすいと思う。
- ・WGを作って具体的にやるのはいいと思う。ただ、旅行代理店に売り込むというのはいかがか。全国の旅館がダメになっている理由の一つが支払手数料。うちはなるべく直で予約をとるように努力しているが、ネットエージェントが当たり前に使われ、客が取られている。これらネットエージェントや旅行代理店も支払手数料がものすごく高いので、売上げが上がっても利益が上がらない。GoToでも東日本大震災のときの復興割引でもネットエージェントを通さないと使えない状況。ネットエージェントを通して客がいっぱい来ても、支払手数料がかさみ、さらにクレジットカードの手数料もあるため、旅館にいくら利益が残るかという話。さらに入湯税、その上、宿泊税となると、旅館をつぶす気かという話。
- ・いかに支払手数料を減らすかというところにかかっている。人件費も上がってきているので、どうにかしなくてはならない。WGの話で旅行代理店の話が出たので気になった。

◆ 笹出委員

- ・小野委員から東北DCエクスカージョンの話があったが、本日、当所の優秀な若手職員が、メトロポリタン仙台でプレゼンを行っている。各市町から情報提供いただき、いい資料ができた。この場を借りてお礼申し上げる。

- ・回復戦略について、最後にある取組一覧が肝になってくるので、この中身について観光課の手腕に期待している。
- ・ロードマップのイメージについて、国内回復期が長引いた場合どうするのか。やはり保険として、順調にコロナ対応が進んでいく場合と進まなかった場合をある程度想定した計画を立てておく必要があると思っている。そういったことも踏まえて、次の観光戦略プランにつなげていくことを考えておいた方がよいと思う。
- ・WGについて、行政として支援は限られるので、出てきたものが本会議の賛同を得られるような内容であれば、先立つものがなければ実行できないので、観光課に強く働きかけていくし、私としても県庁の財政当局にも直接働きかけるなど、県としてもしっかり支援していきたい。

◆ 宮原委員

- ・回復戦略について大枠は問題ないと思うが、言葉の問題について何点か。
- ・資料2-1②の基本理念 全体会議で強く言われたのは、デジタル化をどう進めていくのかということ。「デジタル変革に対応した」というよりは、積極的に県としてデジタル変革を進めていった上で新しいビジネスモデルを創出するという意味で、「デジタル変革を進め」の方が良いのではないか。
- ・視点2(3)交流人口や関係人口の拡大はそのとおりだが、しばらくは数を積極的に集めていくのが難しいということになると、リピーターをどう作るかということが重要なので、「リピーター」という言葉を付け加えていただきたい。
- ・視点3(1)「新しい観光創出」のところで、全体に関わることもかもしれないが、コロナに感染しないように、させないようにいきましょうというところと、新しい観光を作っていくという部分だが、宮城に観光に来たお客が観光によってどうなっていくか、心身ともに健康になっていくとか、リフレッシュできるなど、そういった観光地作り。視点1「安全の可視化で、選ばれる観光地」となっているが、非常に受け身であり、宮城にきたらすごく健康になった、元気が出てきたということを目指していくサービスや対応が全面に出て行くべきではないかと思う。
- ・私自身の体験として、石川県白山市に観光の調査に行ったが、観光というものはものすごい力のあるものだ実感した。冬から遠出しておらず、久々に遠出となったが、自分自身生き返ったような感覚。命の洗濯というが、きれいな山の空気、川の水、おいしい食事などいただいて、今まで以上に体がよみがえったという感覚がして、よく眠れた。旅行して、今まで押し込められていたものが解放できたということは、観光は色々な人たちの活動の中で大事なものだと思った。古代からずっと楽しんできたということは、意識的であれ無意識であれ、観光することが心身に活力を与えてくれる活動なんだと分かっているのだと思う。
- ・そういった命の洗濯をできるような、地域で提供できるコロナ後のサービス・プログラムをしっかりと作っていくべきだと思う。仙南の地域資源を使えばできることだと思う。
- ・嶋崎委員や小野寺委員が“外”がキーワードとおっしゃっていたが、仙南地域はアウトドアをとっても楽しめる場所だと思う。蔵王、フルーツ、田んぼ、ハイキング、サイクリングなど。あまり触れられていないがゴルフ場もよい。一部の人の楽しみになっているが、一般の人や若い人にももう少し気軽にやってもらえるように解放して、ゴルフ場を活用した仙南らしいプログラムもあれば面白いと思う。

- ・資料3（2）一番下「仙南地域 EC サイト立上げ」のところだが、みやぎ蔵王三十六景「地域の逸品」の EC 化、「地域の逸品」を中心とした EC サイトとしていただくと仙南地域の取り組みらしくなるのではないかと思う。
- ・WG については賛成。全体会議で各圏域でどんな話し合いがされたかというのを聞いていると、スタンスとして県に言われたから会議をしたという圏域と、これを機に自分達で動くんだと積極的にいろいろな構想を作って自分達の活動と位置づけているところと、温度差を感じた。是非これを一つの契機として何かまたできることがあればと思うので、可能であれば、学生も参加させていただきながら議論をしていけたら。

【委員からの意見を受けて】

○ 観光課 佐藤課長

- ・仙南地域からの力強いご意見ということで承った。いくつか今回答できるところを回答したい。

・宮原委員の意見

基本理念「デジタル変革」のところは、ほかの圏域会議もあるので、検討課題とさせていただく。視点2に「リピーター」という言葉を入れ込んではどうかということについては、資料2-2（本体）には、例えば25Pなどにファンやサポーターという表現で入れていたが、「リピーター」という表現も加えたい。また、概要版にどう盛り込むかは検討課題とさせていただく。

・笹出委員からの意見

ロードマップについて、令和2年度3年度という大きな時系列で書いているが、何月といった詳細な時期についてはまだ入れ込めない状況。このままコロナが収まればいいが、逆の状況も考えられるのでしっかりと見極めてやっていきたい。予算確保に向けては、しっかりと汗をかいていきたい。

・村上委員からの意見

アクセルとブレーキの話。観光振興と感染症防止の両立が一番大事だと思っている。しっかりと見極めながらやっていきたい。食と観光も大事な部分。道の駅村田のそらまめも買わせていただき、地元こんな美味しいものがあるのかと感動した。食と観光は切り離せないものだと思っている。

・嶋崎委員からの意見

地域のファン、リピーターになっていただくのは大事な視点。観光課の職員が仙南圏域のある旅館の大ファンで、何回も泊まっている。普通だと一回泊まったところや行ったところは一回見ればもういいになってしまうと思うが、すごく気に入って何回も泊まっており、今年は子供の受験で行けないそうだが、こういったところを増やしていくのが大事なのではと思っている。ワーケーションについては、特に企業の理解と家族の理解の2つが欠かせないと思っている。雇用する側である企業が、こういう形態でよい、実績さえ出せばいいという企業の理解が必要。また家族からは、午前中は仕事するけど、午後は一緒にということも大事かと思っている。ただ、政府もワーケーションは推進していくという方針。政府としては休暇を分散して、泊まりやすく、観光しやすくしようという視点。日光金谷ホテルのワーケーションで、午前中は仕事、午後は釣りや登山を奥さんと一緒に楽しむという事例が新聞で紹介されていたが、徐々に広がっていくのかなと思う。

・笠原委員からの意見

マイクロツーリズム、地域の再発見、コンテンツの充実も重要。オルレは、現在コロナの影響で休んではいるが、県内4箇所で行っており、広げていきたいと思っている。

・小野寺委員からの意見

うちで過ごすよりは外で過ごすという意見。県北のあるキャンプ場では去年よりも客多く、120%くらい来ているという話しも聞く。そういった外のキャンプ場は、今後、需要が高まってくるのかなと思う。

・小野委員からDCやエクスカージョンについて紹介いただいたが、今日まさに回っているところで、宮城は福島から来るコースと宮城から岩手に行く2コースがある。来年のDCに向けて盛り上げていきたい。

・一條委員からの意見。

温泉街の活性化やGoToトラベル後の危機感の話。ほんとうにそのとおりだと思う。GoToトラベル後、どうなるのか不安なところがあるので、県としても国や市町と歩調を合わせながら考えていきたい。

・観光というのは、宿泊事業者、観光施設、交通事業者、お土産店など非常に裾野の広い分野だと思っている。地域にとってもはや観光というのは欠かせない産業ではないかと思っている。

・宮原先生からも観光に関する所感いただいたが、観光は自分も周りも幸せにする、人生を豊かにするのは観光ではないかとさえ思っている。そうした中で、観光振興と感染症防止の両立は重要なテーマになると思っている。

・観光振興会議、おかげさまで全体と7つの圏域の8つの会議を6月からやらせていただき、10月に回復戦略をまとめるが、今日で23回目の開催。大変な状況であるにも関わらず、事業者の皆様から非常に前向きで力強い意見をいただいている。こういう時だからこそ、事業者の皆様と二人三脚で取り組んでまいりたい。

・キーワードは“選ばれる観光地”。宮城がコロナ収束後も選ばれる観光地になるということが大事だと思っている。収束後を見据えて、Withコロナの今のうちから準備をしていく必要がある。このコロナのピンチを地域の魅力、観光資源を磨くチャンスに変えようという発想の展開が必要だと思っている。コロナ収束後、宮城に訪れたいような情報発信を、お客様目線で展開し、点から線、線から面の観光地作りをしたいと思っている。

・このコロナはピンチだが、東北6県と新潟というのは関東や関西と比べると感染者は少ないので、安全安心を一つの売りにして、東北全体で広域観光を考えるというところで、その東北のゲートウェイとして宮城はアドバンテージがあるのではないかと思っている。言い過ぎかもしれないが、このコロナのピンチをチャンスに変えて、東北を第二の拠点、第二の新たなゴールデンルートを目指して参りたい。

○大河原地方振興事務所 狩野部長

・事務所からとしては、当事務所長の笹出から申したので、それ以外について。

・仙南地域のとりまとめの部分で、宮原委員からECサイトに「地域の逸品」を中心としたといったようなことを盛り込んでどうかという意見があったので、委員の皆様から異論なければ事務局の方で調整させていただき、別途、後日確認させていただきたい。

・WG活動については、活動として賛成というご意見や是非参加したいという委員もいらっしまったので、

WGに参加される方の意思確認等、後日させていただくことになるが、活動の際は事務局としても裏方としてしっかり役割を果たしていきたい。

【まとめ】

◆ 宮原座長

- ・ 議事（１）～（３）まで皆様から意見をいただいた。県の佐藤課長からも今後についての話もいただいたので、事業化に向けての取組もよろしく願います。
- ・ 大宮委員から提案いただいたWG活動について、委員から一通り意見いただいた。WGの活動について、肯定的な意見多かったと理解。まずは賛同いただいたメンバーによる観光モデルプランの検討WGを設置し、活動いただくということでもよろしいか。（賛同の声）ありがとうございます。では、まずは賛同いただいたメンバーによる検討ワーキンググループを設置して活動していただきたいと思う。
- ・ 本日いただいた様々な意見に関しては、事務局で必要な修正をした上で、９月１０日の全体会議でご説明いただきたい。